

塩谷都市医師会だより

Contents

第 3 回地域医療シンポジウム
国際医療福祉大学塩谷病院との懇談会
医学講座報告

社団法人 塩谷都市医師会
広報委員会

〒329-1312
さくら市桜野1319番地3
さくら市氏家保健センター内
TEL 028(682)3518
FAX 028(682)5760

地域医療シンポジウム

「救急医療の現状と展望」開催される



7月11日(土)午後3時から矢板市文化会館小ホールにおいて塩谷都市医師会主催の第3回地域医療シンポジウムが開催され、市民約250名が参加した。

今回のシンポジウムは今年4月から国際医療福祉病院に経営移譲された塩谷病院の現状を中心に塩谷地区の救急医療の現状を把握し、今後の展望を考えようということで「救急医療の現状と展望」がテーマとなった。



パネリストと発表テーマは「矢板地区の現状」(塩谷都市医師会 後藤哲郎)、「塩谷地区の救急搬送の現状」(塩谷広域行政組合消防本部 榎孝次)、「二次救急病院の現状と相互連携体制」(黒須病院院長代行 手塚幹雄)、「塩谷病院の現状と今後」(塩谷病院院長 江口光興)、「この地区の医療の再構築のために必要なこと」(矢板医師団長 山田聰)で、それぞれの発表の後、パネルディスカッションが行われた。

また、会場からの市民の質問や上都賀郡市医師会副会長の奥山先生より上都賀郡の現状報告があり、今後の展望という点で各論的な話し合いができた。詳しい報告書は今秋、会員に配布される予定。 文責/岡



今回からスタッフはピンクのジャンパーを着用

塩谷都市医師会ホームページ/メール	広報委員会編集部	医師会事務局
URL http://www.tochigi-med.or.jp/shioya/ メール shioya@tochigi-med.or.jp	岡 一雄 r2d2@msh.biglobe.ne.jp 尾形新一郎 ogata@o-ga-ta.or.jp	桑川 shioya@triton.ocn.ne.jp 坂和 sakawa@e-shioya.jp

充実した病診連携をめざして

塩谷病院との懇談会開催される

去る6月18日、矢板イースタンホテルで国際医療福祉大塩谷病院との懇談会が行われた。JA塩谷総合病院が国際医療福祉大学に経営移譲されて2ヶ月が経ったが、今回の懇談会は顔の見える医療を基本として地域医療に携わっている我々医師会と新しく着任した先生方との顔合わせ・情報交換を目的に開催された。



尾形(新)理事の司会で、尾形(直)会長、江口病院長の挨拶、次いで出席者全員の自己紹介があった。江口院長からは、病院継承に際しての地域行政・医師会の協力への感謝の言葉が述べられた。

旧病院から残った7名を含め総勢20名の医師が確保されたが、整形外科・泌尿器科の常勤医師が不在のため外傷、骨折等の外科系の救急には対応できていないこと、さらに比較的年配の医師が多く当直のできる若い医師が少ないため夜間の救急には限界があること、しかしながら外来・入院数、さらに全麻下の手術も少しずつ増えてきており、スタッフが充足するには暫くの猶予が必要だが、前向きに取り組んでいるので期待してほしいとの現状報告と今後の抱負を聞かせていただいた。

会を通して、江口院長をはじめ院内の諸先生方の地域医療に取り組もうとしている真摯な姿勢に意を強くし、お互いのより一層の

連携の必要性を感じた。

懇談会後の懇親会では、打ち解けた雰囲気の中、お互いの顔の見える医療の第一歩が始まった。毎日、東京から新幹線で矢板に通勤している先生もいると聞く。早く矢板になじみ、地域の医療に力を貸して頂きたいと願っているのは私だけだろうか。 文責/尾形直



親睦会

塩谷都市医師会医学講座

「虚血性心疾患のトピックス」

獨協医大循環器内科

准教授 堀中繁夫先生

平成21年5月12日(火)午後7時

心筋梗塞に代表される虚血性心疾患の患者数は16万人を超えている。そして虚血性心疾患は病院と診療所の役割がはっきりしているという点で病診連携を行いやすく、われわれ開業医も最新の知識を身につけておく必要があると思われる。近年その治療はバイパス手術などの外科治療から内科的な経皮的冠動脈形成術(PCI)が約7割と増えており、その8割はステントが使用されているという。

今回は進歩著しい虚血性心疾患の治療と診断技術のトピックスについて堀中先生に御講演いただいた。講演では、PCI治療ではバルーンで拡張する治療法よりもステントを挿入する方法のほうが臨床的に安全で再狭窄予防にも有効であるが、従来のステント

治療でも再狭窄が 20-40%の頻度で起こり、その改善のために薬剤溶出性ステントが登場したことや、薬剤溶出ステントでも死亡率の改善が見られないなどの事情がわかりやすく示された。また、近年の画像診断の進歩で心臓カテーテルを行わずに MDCT により非侵襲的に冠状動脈の評価ができるようになったこととその画像が多く示され、患者さんに検査を勧めやすくなったと言えよう。

報告 / 岡

感染症情報

ご注意ください!

新しい日本脳炎ワクチンについて

6月2日より乾燥細胞培養日本脳炎ワクチンが認可され接種が開始されました。90カ月に至る者に対し初回接種の2回と初回追加接種の1回が対象となります。料金は2市2町共通で7,350円(消費税込み)となります。小学4年生を対象に接種していた日本脳炎の2期については、まだ安全性が確立していないとの理由で認可されておりません。

なお、従来のマウス由来のワクチンの接種も可能ですが、以前と同様に副反応に対する説明と同意書が必要になります。マウス由来ワクチン接種料は5,250円で変わりませんのでご注意ください。

不明な点がございましたら軽部まで連絡いただければお答えします。

0287 43 1210

感染症対策委員会委員長 軽部 敏昭

新型インフルエンザ発生に思う

日本国内で新型インフルエンザが発生したのが5月16日。瞬く間に日本中に広がり、栃木県ではちょうど1か月後の6月16日に発生が確認された。そして、塩谷郡市でも7月14日に矢板市のこどもの森こころ保育園で新型インフルエンザが発生した。当初、舛

添厚生労働大臣自ら、患者が新たに発生するたびに記者会見を開いて発表していたが、全国に蔓延したために患者の全数把握の方針を止め、集団発生が疑われる場合に限りPCR検査を行って新型インフルエンザかどうか確認することになった。

この2か月を振り返ってみると、厚生労働省の対策や省令は日々変わり、一貫性に欠けたもので、そのたびにわれわれ医療従事者や国民は翻弄された感がある。現時点で、われわれ開業医がどう対処すべきか、あやふやな部分も多い。

幸いなことに今回の新型インフルエンザはH1N1の豚インフルエンザで、強毒性が予想されるH5N1の鳥インフルエンザとは異なり、現時点では弱毒性である。秋から冬にかけてこの新型インフルエンザはさらに流行することが予想される。また、近い将来鳥インフルエンザも出現する可能性がある。今回の新型インフルエンザ騒動は、今後のインフルエンザを含めた感染症の対策に大きな教訓を残したといえよう。(文責/岡一雄)

新入会員紹介

事務局到着順に掲載

江口 光興(平成21年4月1日入会)

昭和41年信州大学卒、信州大学医学部小児科入局、昭和53年獨協医科大学助教授、平成10年獨協医科大学教授、平成18年国際医療福祉大学教授、国際医療福祉大学病院小児科を経て、平成21年4月より国際医療福祉大学塩谷病院長

医学博士、日本小児科学会専門医、獨協医科大学名誉教授、

毎週、火曜日、金曜日、土曜日の午前中は小児科外来診療を行っております。

小児科疾患全般の診療を行いますが、特に、

小児血液疾患、小児てんかんなどの診療を得意としております。

<医学外活動>

日本児童文芸家協会会員、最近、絵本「チーコのくれた宝物」を出版しました。全国学校図書館協議会、日本こどもの本研究会の選定図書に推薦されました。

アマゾン、B K Iなどのネット書店で購入できます。

平成20年第70回一水会展（東京都美術館）にて新人賞受賞、栃木一水会会員、日本清興美術会会員（清興会展受賞4回）、青人会会員、NPOグランドアート会員、グループ展参加多数。

奥井 重徳（平成21年5月1日入会）

はじめまして。このたび塩谷都市医師会に入会させて頂くことになりました奥井重徳と言います。本年4月より、黒須病院外科に常勤勤務となりました。

出身大学は、慈恵医大で、昭和58年卒業しました。専門は消化器外科、末梢血管外科です。生まれはワイン・桃・ほうとう・武田信玄で連想されます甲州、山梨県の出身です。現住所は東京都八王子市です。栃木には以前から温泉やゴルフなどで時々訪れることはありましたが、それ以外特別な地縁はありませんでした。このたび降って湧いたようなお話を頂き、黒須病院に勤務させて頂くことになりました。

趣味は強いて探せば、温泉巡りと飲酒(?)です。

これから地域貢献を意識し努力していくつもりです。宜しくお願いします。

杉田 和彦（平成21年5月1日入会）

現在、医療法人薫会菅又病院に勤務しております。以前は獨協医科大学胸部外科に勤務し、呼吸器外科を専攻しておりました。

今後は地域医療に貢献したいと考えております。会員の皆さま方のご指導をよろしくお願い申し上げます。

宇賀神 卓広（平成20年11月1日入会）

この度は、歴史ある塩谷都市医師会へ入会させて頂きまして誠に有難うございます。

出身は栃木県鹿沼市です。平成4年、産業医科大学を卒業し、自治医科大学附属病院で研修後、同大学院へ進みました。その後、附属大宮医療センター（現さいたま医療センター）および関連病院に勤務いたし、平成20年5月に退職。同年6月から黒須病院へ勤務しております。専門は内科一般、消化器内科です。若輩者ではございますが、医師会の先生方の御指導御鞭撻の程宜しくお願い申し上げます。



夏の親睦会 ~ 高根沢

町医師団 ~ 医師会納涼会開催される

7月31日(金)午後7時より高根沢町元気あつぱ村「青梅」において親睦会が開催され、医師会員21名が参加しました。

阿久津正美高根沢町医師団長の乾杯の音頭で幕を開け、麒麟麦酒工場直送の喉ごし爽やかな生ビールと次々に運ばれる美味しい料理を楽しみながら会話ははずみ、楽しいひと時を過ごすことができました。

